



小荒間古戦場跡に鎮座する「信玄公御座石」

とも言えない心地よさを与えてくれる。
 穏やかな景色に身を任せながら五十分程歩くと、広い道路と交わった所に懐かしい水車小屋があった。今も使われているのだから、水車は勢いよく水音をたてながら回っていた。ここから数分歩けば「三分一湧水」に着く。よく整備された公園の中にある「三分一湧水」は、その昔、水利権をめくり争いの絶えなかった近在の村に上流からの水を三方に等しく分配するよう三角石柱を持つ水路を設えたといえられており、訪れる人々に先人達の知恵と自然の豊かさを教えてくれる。公園内には数十年前の洪水で流れ着いたという大きな石も残り、自然の力の大きさ、その前で

「棒道」は、三分一湧水」の公園を過ぎて左にある橋を渡り、すぐ先を右折し小海線のガードをくぐり小荒間番所跡へと続いていく。
 番所跡を過ぎ道標に案内されながら集落を抜け、棒道橋を渡ると再び林の中へと道は入って行く。途中、女取湧水への道と分かれ、左に伸びていく「棒道」はいよいよ狭くなり、往時の武田軍が駆け抜けて行った時と変わらぬような一筋



木々の間を貫く棒道

の人間の小ささをも伝えてくれるようであった。また、ここから五分ほどの所には武田信玄が信濃から侵攻してきた村上義清と合戦し、これを撃退したと伝えられる、小荒間古戦場跡があり、信玄が座したとされる、信玄公御座石など往時をしのぶ史跡が見られる。

山梨の旧道を訪ねて

一道一会

棒道 / 白井沢から県境付近まで

戦国の世に造られた軍用道路「棒道」、その道は今はリゾート地となった八ヶ岳山麓で、多くのハイカーでにぎわう道となっていた。

武田信玄が北信濃攻略のために造った軍用道路。その道は八ヶ岳の等高線に沿い、目的地である北信濃までほぼ直線的に伸びていることから「棒道」と呼ばれている。棒道には上・中・下の三筋あったと言われているが、今回は「上の棒道」を北杜市長坂町白井沢から長野県との県境付近まで歩いてみた。
 「JA梨北小泉支所前」と書かれた五叉路の交差点を、北杜市大泉町谷戸方面に向かい歩き始める。道は数分で上りの道となるが、辺りの田園風景や背中越しに見える甲斐駒ヶ岳が上り坂であることを忘れさせてくれる。およそ十五分程歩き鳩川に架かる橋を渡った所で小さな十字路を左折し、川沿いの道を一〇二分歩くと左手の林の中に入る道がある。
 そこから道は未舗装となり、歩き始めるとすぐに石仏に出会う。ここからはこの観音石仏群が「棒道」を案内してくれることになる。これらの観音石仏は江戸時代後期の頃、通る人も少なく、荒廃していた棒道を近在の村人たちが整備



三分一湧水の清涼な流れ

木立のすき間から漏れる陽や、川のせせらぎ、野鳥のさえずりが五感を優しく刺激し、なん

の道となる。
 細く伸びていく道に歩みを進めていけば、樹林を抜ける風によっておきる葉音が、まるで当時の兵士たちの甲冑の擦れる音のようにも聞こえてくる。この道を駆け抜け北信濃へ向った兵士の何人かは、再びこの道を帰ることができなかったのだからと思うと、「棒道」と言う言葉が妙に切なく心に響いてきた。
 道の左手に開かれた別荘地に沿ってさらに進んで行くと、唐松林に囲まれた道は広く切り開かれ、乾いた風が吹き抜けていく開放感のある爽やかなハイキングコースとなっている。歩き始めてから二時間程経ったころ、右手に火の見櫓が置かれていた。ここは、高尾山から八ヶ岳高原ラインに突き当たり、ハイキングコースは終わる。しかし軍用道



した際に、道標として、また、旅の安全を祈念するため、西国三十三ヶ所「板東三十三ヶ所」の霊場を模して安置されたと言われているものである。それぞれの石仏には番号や寺院名などが刻まれている。残念ながら当時の石仏のすべては残っていないようだが、一体ごとに異なる表情が歩く人を優しく見守ってくれる。なだらかな上り坂が続く砂利道に歩を進めて行けば、



路肩には、所々に石仏が並ぶ